

様式 2

## 平成 31 年度 学術振興基金助成による成果報告書

令和元年 1 1 月 1 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 大山 大

助成事業の区分	いずれかにチェックしてください 研究協力に関する事業 ( <input checked="" type="checkbox"/> 学会参加) 学術振興に関する事業 ( <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 事務職員)
事業名	第 7 回アジア錯体化学会議(ACCC2019)
事業実施期間	令和元年 1 0 月 1 4 日～ 令和元年 1 0 月 1 9 日
成果の概要	<p>マレーシアのクアラルンプールで開催された 7th Asian Conference On Coordination Chemistry 2019 (ACCC7 2019)で研究成果の一部を下記のタイトルでポスター発表した。</p> <p>「Structure-Property Relationships Based on Synergistic Effects of Supporting Ligand and Coordination Geometry in Ruthenium Complexes Containing Asymmetric Polypyridines (非対称性ポリピリジンを含むルテニウム錯体における支持配位子および配位幾何の相乗効果に基づく構造・特性の相関)」(赤塚こうみ、高瀬つぎ子、大山大)</p> <p>ポスターの概要について以下に示す。以前、私たちは 2 種の配位子の導入順序を変更することで幾何異性体を選択的に合成できることを報告した。そこで、非対称性配位子および自由度の異なる対称性支持配位子を導入した所望の異性体をそれぞれ合成し、(i)支持配位子(ii)幾何異性体の相乗効果について調査を行った。本研究では、光および熱反応を中心に比較検討を行い、支持配位子が与える影響や幾何異性体による反応性の相違を明らかにした。</p> <p>本学会では、配位化学を中心に、日本を始めアジア圏の学生および教員が参加しており、国内外問わず錯体化学分野について広く研究内容を見聞できた。また、参加者の方々との意見交換を通して、修士論文に向け、研究の方針や考察など新たな見解が得られた。</p>